

上越市立教育センター

245号

所報

令和5年7月28日発行

発行：上越市大字下門前1770番地

上越市立教育センター

所長 竹内 学

E-mail jecenter@jorne.or.jp

URL <http://www.jecenter.jorne.ed.jp>

学校づくりの核となる校内研究の可能性

～ 校内研究の役割を考える ～

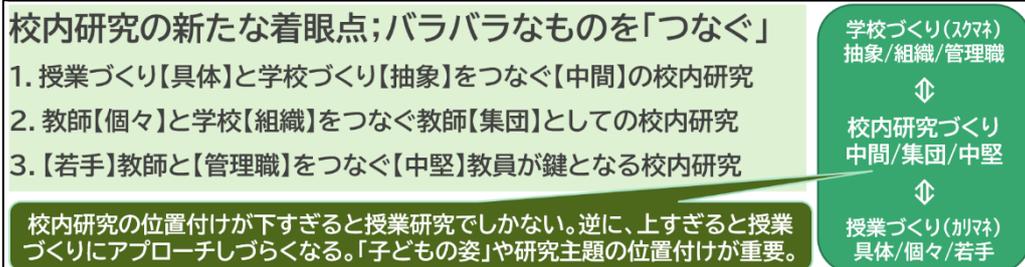
市教育センター研修「教師が主体的に学ぶ校内研究づくり」(5/12, 17, 24)では、各校の研究主任と共に、職員集団による対話と協働によるボトムアップ型の校内研究が教師の主体性を引き出し、授業づくりと学校づくりをつなぎ、学校づくりの核となっていく可能性を秘めていることを確認し合いました。

研修では、研究主任が持参した自校のグランドデザインを基に、そこに描かれている抽象レベルとしての教育理念や目指す子ども像が、どのように具体レベルとしての授業づくりや学級づくりに生かされているのか・いないのか、それはなぜなのかを対話によって明確にしていきました。研究主任同士の対話から、以下のような問題意識が生まれてきました。

- ◆これまで校内研究は授業づくりだけを対象としてきて、学校づくりと切り離されていたのではないかと。授業づくり⇔学校づくりとなる校内研究へ移行することが必要だ。
- ◆校内研究では、学校が理想とする教育理念や子ども像を意識した研究主題や目指す子どもの姿をおき、“日常的な授業改善”と“日常的な対話活動”をしていきたい。
- ◆学級づくり・授業づくり・校内研究づくり・学校づくりを統合し、一本化させたい。それぞれの立場で教育をよりよくしていくことが、そのまま学校づくりにつながる。教師一人一人の働きがいや幸せ、学校づくりへの参画意識や貢献意識につながる。

自分たちの学校のため、子どものため、そして教師自身のために、“教職員みんなの対話による”校内研究をつくっていくところに、校内研究の大きな可能性が見えてくるはずです。

以下は、研修会で使用したスライドの一つです。参考にしてください。



(担当 学校教育課指導主事 高橋)

* 参考文献：山住勝広「教育イノベーションへの拡張的学習と形成的介入のアプローチ-協働的で変革的なエージェンシーの形成-」(『拡張的学習と教育イノベーション 活動理論との対話』第2章 p27-44)

「所報」は、教育センターのホームページでも公開しています。ご覧ください。





教育センター研修紹介

教師が主体的に学ぶ校内研究づくり ～研究主任研修～

研修が始まると、参加された先生方の明るく賑やかな話し声が研修棟の1階まで響いてきました。熱気にあふれ充実した対話が続いていることが感じられました。

今年度の研修では、講師の講話を受けて参加者が互いに交流し、対話する時間と場を確保して学びを拡げたり、振り返りにより学びを深めたりするよう工夫しました。先生方の主体的・

対話的で深い学びを実現するためです。

研修を通して、上越市の教育大綱にある「わくわく」する学びを、まず先生方に実感していただくことを目指しています。

上越市教育大綱「わくわくを未来へ」(R4.7)

学ぶってカッコいい

学び続ける 自分のために 何かのために

認め合う 一人ひとりのチャレンジを

心動かしながら このまちの物語を つくり つないでいく

上越市は、あなたのわくわくする学びを支えていきたい



右は研究主任研修会冒頭の高橋指導主事のプレゼンです。

「わく」には、色々な意味があり、「わくわく」した気持ちは、主体的な学びを支え、確かな学力につながります。

この「わくわく」

感、子どもでも大人でも、楽しく充実した生活や希望あふれる明日につながるものです。以下、研究主任の皆さんの振り返りで寄せられた「わくわく」感あふれる言葉を紹介します。

○まずは指導者・教師が研究を楽しむ

「(前略)“孤独”である研究主任の役割について互いの立場や考えを基に話す機会は大変有意義でした。高橋指導主事がとても楽しそうに話をされる姿が印象的でした。研究主任が楽しそうに研究について語れば、職員も楽しくなる!のではないかと思います。まずは私が研究を楽しみたいと思います。」

○教師が主体的に学ぶ

「子どもが主体的に学ぶためには、まずは教師が主体的に学ぶ必要があると思います。つまり、主体的に学ぶことのよさを実感し、そういう体になっていくことが求められているように感じます。そのためには、私たち一人一人が校内研究の過程において、何を感じ、考え、実践を繰り返しているのかを振り返ることが重要なのではないのでしょうか。(後略)」

上越市教育大綱 (R4.7) *教育施策の根本におく理念

わくわくを未来へ

「わく」;湧く・沸く…底からわき上がる、水などが地中から出てくる

「わく」;自然に発生する、急に現れる、盛んに起こる、次々と起こる

「わくわく」;遊びでも趣味でも、家庭でも仕事でも学びは生まれる(学びに向かう力、態度)

喜びがわく
希望がわく
勇気がわく
元気がわく

対象(人・もの・こと)への
興味がわく
疑問がわく

知的好奇心
がわく
学習意欲
がわく

アイデア
がわく
活動意欲
がわく

上からではなく下から。外からではなく内から。⇒主体的な学び



「(前略)後半のグループセッションでは、同じ立場の先生方とお話ができて、大変有意義でした。先生方の「主体的に学ぶ姿」をお聞きする中で、自分の考えも明確になってきたように感じました。何より、本研修での話し合いが目指す校内研修、授業づくりの一つのモデルであると感じました。校内研修の在り方について具体的に考えることができました。(中略)元気がもたらされた研修会でした。(後略)」



○研修会での学びを即実践に移す

「研究主任を一人にしないというお言葉が、大変ありがたかった。早速、校内で時間を設けて職員の考えを聞き合うことができた。今までの教師側(指導力)から授業をみるやり方から、子どもの姿(学び)でみるという発想の転換が大切なことが分かった。また、その転換が難しいことも課題だと感じた。(中略)授業公開に向けて、指導案の検討会というよりは、相談会(授業づくり構想会)を気軽にもっていきたいと感じた。」

○対話で得られた多くの学び

「小規模校だからこその悩みもあれば、強みもあるということを再認識でき、他の中学校における職員



研修や学習指導の在り方を知る中で、これから職員全員で何をどんなやり方で進めていくかを改めて考えるきっかけとなりました。すべては、目の前の生徒のために…一人一人の生徒を大切に、教科を越えて職員同士で生徒について授業について語り合える、そんな職員集団でありたいと思えました。」

○「目指す子ども像」の共有と具現

「目指す子ども像をいかに職員が納得して、共有しているかが大切だと考えました。グループセッションでは、その納得してつくった子ども像をよりどころに、子どもを見つめていく中でその像をより広く捉えなおすことがあってもいいんじゃないかという話題が出てとても勉強になりました。そう考え直す背景には、「一人の子どもの姿をみること」や「もっとこういう姿を私たちは大事にしていかなければいけないのではないのか」という見方や考え方が共有されていると考えるからです。」

この他にも素晴らしい振り返りの言葉がたくさんありました。先生方の主体的な学びの意欲があふれた研修会でした。

最後に、本研修について一つ付言します。「授業づくり」「研究づくり」「学校づくり」をつなぎ、教職員、保護者、地域みんなで共に学校を創っていく営み。実はこれが「共創＝共に創る」という上越カリキュラムの理念そのものなのです。(担当 教育センター指導主事 品田)



保護者のためのリーフレット
**「お子さんが学校に「行けない」「行きたくない」
 そんなときに」** を活用ください



昨年度、教育センターでは表題のリーフレットを作成し、上越市内の小中学生の全保護者にお届けしました。我が子が学校に「行かない」ときの保護者の心配や焦りは、子どもをより苦しめる言葉や態度として表れてしまうことがあります。リーフレットは『行けない』『行きたくない』そんなときの子どもの心情や行動の理解を促し、保護者は何をしたらよいか、学校や相談機関とどのように連携すればよいかを紹介した内容になっています。



夜中あるいは朝方まで起きていて、昼過ぎまで起きてこない…。昼夜逆転のこんな日が続くと、子どもが怠けて学校に行かないように見えてしまいます。でも、子どもの中には、周りが学校や仕事に行っている日中は罪悪感や自己否定に苛まれる辛い時間なので寝て過ごし、周りが眠る夜に安心感が高まって活動していることがあります。また、動画視聴やゲームばかりしている状態も同様で、辛い状況を一時的にでも忘れるために没頭している子どももいます。入浴や着替え、歯磨きができなくなる子どもは、自己決定やいくつかの手順を踏む気力が足りないことがあります。

つまり、「行かない」子どもたちなりにもがき、様々な方法で辛い状況を安定させようとして過ごしているのです。ですから、行動の裏側にある子どもたちの辛さを認め、安心して過ごせる環境を整えることが大切です。そうすることで、徐々に心配な行動が緩和されることが多いようです。そのうえで、学校や社会など再び外と繋がるための小さな小さなステップをたくさん用意して、できることを増やし継続しましょう。

ただ、子どもの行動は慎重に見極めることが必要です。保護者、可能であれば本人に会って話を聞き、適切なアセスメントを行うことがとても大切です。心身の状態がよくない、行動の改善がなくむしろ悪化しているようなときには、ぜひ専門機関と連携することをお勧めします。

保護者のためのリーフレットとして作成しましたが、先生方にもぜひ内容を理解していただき、学校、家庭、時には関係機関も連携し、子どもたちの今と未来の幸せを応援していきましょう。



(担当 上越市立教育センター スクールソーシャルワーカー 鈴木)

お子さんが学校に「行けない」「行きたくない」そんなときに 保存版

子どもを受け止め、応援する ★★ 保護者のためのリーフレット ★★

はじめに
 お子さんが、学校に「行かなくても行けない」「行かたくない」と言い始めたとき、お子さんの急な変化にとても不安になると感じます。そんなときに、お子さんの気持ちをどう受け止め、どう対応したらよいのか…少しでもヒントになればと、このリーフレットを作成しました。
 お子さんのストレスの自覚や接し方、相談先などの情報を載せてあります。一人で抱えず、一歩に考えてみませんか？

こんな様子はありませんか？ 家や学校での様子からチェックしてみましょう。

<input type="checkbox"/> 口数が減った <input type="checkbox"/> 好きなこともやりたがらない <input type="checkbox"/> 学校や友だちの話題を避ける <input type="checkbox"/> 保健室の利用が増える <input type="checkbox"/> 忘れ物が増える <input type="checkbox"/> テストの点数が急に下がった	<input type="checkbox"/> 頭痛、腹痛を訴える <input type="checkbox"/> 過食あるいは食べなくなる <input type="checkbox"/> 過眠になる、眠れない <input type="checkbox"/> 寝つきが悪い <input type="checkbox"/> 強く甘える、怖がる <input type="checkbox"/> 微熱が続く <input type="checkbox"/> 感情の起伏が激しい <input type="checkbox"/> 笑顔がなくなっている	<input type="checkbox"/> 朝起きられなくなる <input type="checkbox"/> 反抗的、攻撃的になる <input type="checkbox"/> ゲームやスマホの時間が増える <input type="checkbox"/> 着替えや歯みがき、入浴をしなくなる <input type="checkbox"/> 家や部屋に閉じこもりがちになる
--	--	--

これは子どもの心が疲れているサインです。
 子どもの不安や悩み、緊張、ストレスは、心や体の不調や態度、行動に現れることがあります。サインが見られなくても心が疲れている子どももいます。
 心が疲れた状態が続くと、子どもは学校に行きづらくなる可能性があります。

上越市教育委員会・上越市立教育センター 2023改訂版